

ユアン・イー研究員(中国)

私は、2003年より中華人民共和国民政部(MCA)・国家減災中心(NDRCC)のスタッフとして勤務しています。民政部は、国の災害救援活動を組織・調整する役割を担っています。そして昨年設置された NDRCC では、防災や災害救援に関する政府の意思決定の支援を行い、また技術・情報支援、応用研究、人材育成などの活動を中心に行っております。私自身は、大学院の修士・博士課程において災害研究に携わっており、現在では、災害評価や情報管理が主な業務となっています。



中国は、多岐にわたる地形や変動しやすい気候が原因となって、洪水や干ばつ、地震とほぼ全ての種類の自然災害が発生しやすい国となっています。過去10年には、1996年の麗江地震(雲南省)、1998年の長江と松花江沿いで発生した洪水、2003年の巴楚加師地震(新疆ウイグル自治区)や淮河と渭河沿いで発生した洪水など、数多くの大惨事を経験しました。1990年以來、自然災害による年間直接経済損失は、GDPの4-6%に及び、死者数は数千人にのぼっています。このようなことから、自然災害が、中国における持続可能な社会・経済開発を妨げる大きな障害となっていることは明らかです。

自然災害による被害や損失を減少させるために、中国政府では、政府間における業務分担の調整、異なった行政レベルによる業務管理などを目的とした、自然災害の総合的な管理システムを構築しました。また、中国の総合的な防災連携メカニズムについては、国務院が調整役となり、中国国際減災委員会や全国抗災救災総合調整室などを設立しました。このような調整機関によって、異なる行政レベルの防災関連官庁に対して統一した考えを浸透させ、防災に関する政府決定を適宜に実施できるようになりました。

このたび7月より、アジア防災センター(ADRC)の外国人客員研究員として日本に3ヶ月滞在することになりました。当センター在任中は、日本の防災政策について学び、中国に関する災害情報や防災システムを紹介したいと考えています。また、そうした中で、中国と日本およびアジア諸国間の一層の国際防災協力関係を促していきたいと思っております。